

日本人の



vol.38

地蔵盆の絆

壬生寺貫主 松浦 俊海さん



まつうら・しゅんかい 1934年、京都市生まれ。龍谷大卒業後にミャンマーで仏道修行。69年、壬生寺貫主就任。唐招提寺85世長老、鑑真学院(中国)名誉学院長。壬生老人ホーム理事長。著作に「壬生大念仏狂言解説」「仏教と芸能—壬生狂言を中心として—」ほか。

8月の京都で一つの風物詩である地蔵盆は、子供達にとって、他人の大人と大きく関わる場である。町内の大人達に何かと教わり、時には叱られたりもして、地域社会のルールを知って融け込んでいく。また、大人同士も、町内の人々と親しくなるきっかけでもある。住民は互いに、町内にはこんな人達が住んでいるのだと知ることができるのだ。

隣に何人が
住んでいるかも
知らず



しかし近年では、町内どころか隣家に何人が住んでいるかも知らず、たまたび孤独死や孤立死が報道された。行儀の悪い他人の子供を説教しようものなら、その子に「逆手」されるか、その親が飛んで来て謝るところか、毒づくことがあるという。

お地蔵さんを本尊とし、三休もの石



時代を超えて、人々の祈りを受け止めてきたお地蔵さんたち。風化した石の表情が、京の長い歴史を物語る(壬生寺境内の子休地蔵)

「向こう三軒両隣」の間の親類以上の付き合いが肝要

0157やカレー毒物事件の後は、お菓子を手作りしたり、焼きそばやたこ焼きなどの地蔵盆行事を止めた町内が多かった。さらに役員の手間がかかることで、二階から福引の景品を「かご」に入れてロープウェイより下ろす「一番降ろし」や、道路を横断する町内会ごとの大あんどんの素晴らしい作品を見ることがもまれなくなった。

戦後、日本人は物の豊かさ引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)



「一番降ろし」や大あんどんの素晴らしい素晴らしさ

しかし万一の場合は、庶民が忘れていく「向こう三軒両隣」の間の親類以上の付き合いが肝要であろう。その絆を繋ぎ、隣人を愛し、相隣関係をより親密に出来る一つの手段だが、地蔵盆であると信ずるのである。

東日本大震災で「絆」の意義が、大きく注目を集めた。一千年の都、京都は久しく天変地異や戦禍を免れて来た。それ故に、路地や木造家屋が多く、災害には脆弱だと危惧される。

地域への奉仕を担うに思ふ人達が多く、少子化が加わって、地蔵盆も休止したり、果ては「土升金一升の事情」で、個人の土地に善意で所在した地蔵を祀る祠をも、所有者が変わるなどすると移転を求められるという負の連鎖が生まれて来る。世の中の疎外感、閉塞感が町内の地蔵さんにも災いしているようだ。

疎外感や閉塞感が
お地蔵さんにも
災いしているよう

日本の暦

比良八荒

比良山麓一帯では、毎年3月末ごろに寒さがふり返し、強い風が吹き荒れることがあります。昔から「比良八講の荒れ(荒れじまい)」と呼ばれ、「比良八荒」の字が充てられるようになりまし。

比良八講とは室町時代まで、比良明神などで修された法華経講の法会。比叡山のお坊さんたちが旧暦2月24日に営んだといひます。法会の際が、ちょうど強い比良おろしが吹く時節と重なっていたのです。

長く途絶していた比良八講は1955年に再興され、毎春3月26日に湖上や湖岸で水死者の供養や人々の息災を祈る関連行事が定着しました。大津市内を練る修験者たちのホラ貝は湖国に春を告げる音として親しまれています。

リレームッセージ

西陣暮らしの美術館「富田屋」代表



田中 峰子さん

■町家の不思議

京の町家には、八百万の神々がお住まいです。希望に起きて、愉快に動き、感謝に眠る。そんな暮らしに五感で季節を感じる。雨の音に目覚め庭に目をやると木々の美しさにハッとする。太陽のまぶしさを木々で遮り、お居間は、木漏れ日が美しい。優しい木の温かみが、心豊かにしてくれる。

なんでもないことに時が止まるような感動を町家の暮らしは思い出させる。大切にしてきたものは、家族への祈り。世の平和。伝統を守っていくことの大変さを、楽しさに変えて、人々に癒しを感じていただく空間を守り続ける。昔の暮らしの中に思いやりをみつけた。

旧暦4月3日まで、女の子の節句を祝う代々の「お雛様」が100体、富田屋を飾る。この家に生まれた女の子の成長を毎年、家族親戚で祈り、元気で過ごせることへの感謝。節句に秘められた、日本人の心は、子どもの教育には欠かせないように思う。

七五三で氏神様に大きくなったことを報告して、十三参りで厄払いをして知恵を授かる。成人式までの子どもを見守る家族の愛がしきたりとなって、長く続いた日本。皆で子を大切に育てた。そんな時代が懐かしい。(次回4月1日のリレームッセージは、ミセスリビング代表取締役の宇津崎光代さんです)

(「日本人の忘れもの」は、京都新聞ホームページ <http://kyoto-np.jp/kp/kyo-nd/info/nwc/>にてご覧いただけます)



チーム、きんでん。

(施工力+技術力+現場力)×情熱

“お客さま満足”という目標に向かって、さまざまなスタッフが力を結集。人間力を基盤とした総合エンジニアリング力で、あらゆるソリューションにお応えします。



エネルギー 電気 衛生 環境 内装 その他 情報 情報通信 計装 空調 土木

本店 大阪市北区本庄東2丁目3番41号 東京本社 東京都千代田区九段南2丁目1番21号
TEL.06-6375-6000 TEL.03-5210-7272
<http://www.kinden.co.jp/>

